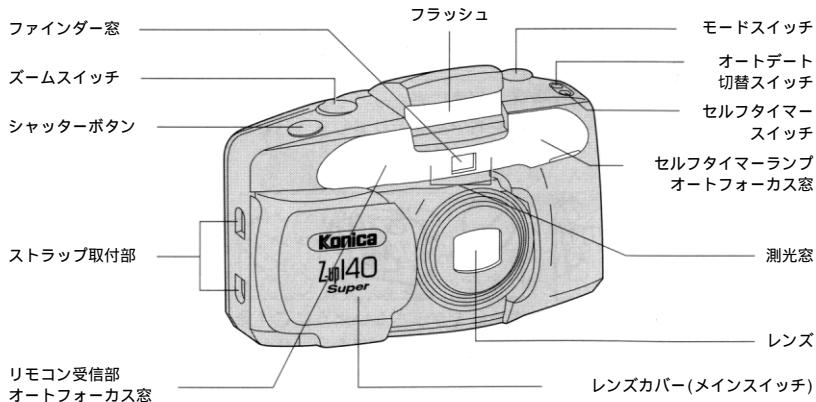
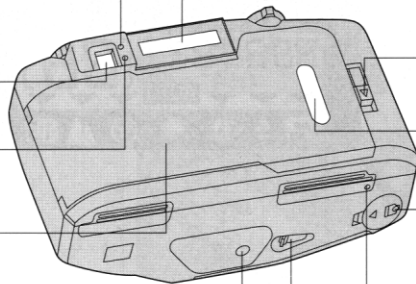
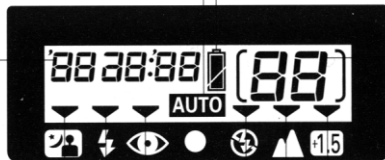
Konica Z-up140 Super

ご使用前に必ず、
お読みください。

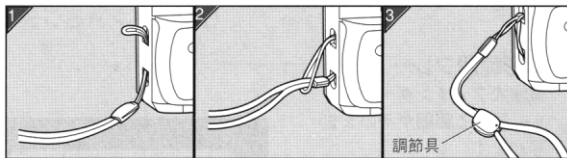
使用説明書

各部の名称

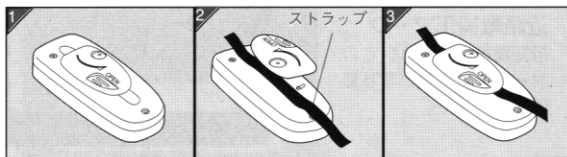
ファインダー窓
ズームスイッチ
シャッターボタン
ストラップ取付部
リモコン受信部
オートフォーカス窓
フラッシュ
モードスイッチ
オートデート
切替スイッチ
セルフタイマー
スイッチ
セルフタイマーランプ
オートフォーカス窓
測光窓
レンズ
レンズカバー(メインスイッチ)
Konica
Z-up140
Super

緑ランプ
ファインダー接眼窓
赤ランプ
裏ぶた
三脚穴
P (パノラマ)
切替えスイッチ
撮影モード表示パネル
／日付・時刻表示窓
裏ぶた開放ノブ
フィルム確認窓
電池室カバー
途中巻き戻し
スイッチ

撮影モード表示パネル

＊図は全ての液晶を点灯状態で示してあります

撮影モード表示用液晶のバックパネルには、放射性物質などの有害物質を含んでいない蓄光性蛍光体が使用されております。太陽光や蛍光灯の明かりを吸収して蓄え、暗闇で光を放ちます。なお、光を放つ時間は、光を蓄える際の周囲の明るさや時間によって異なります。また、発光の輝度は時間の経過にともない減衰します。

ストラップ・リモコン取付け方

ストラップの取付け方

リモコンの取付け方

＊ リモコンはストラップに取付けることができます。

＊ 取り外す場合は、逆の手順で行なってください。

⚠警告　爆発して大けがの危険があります。リモコンを火の中に入れたり、分解、加熱しないでください。

ファインダーと表示ランプ

標準撮影時

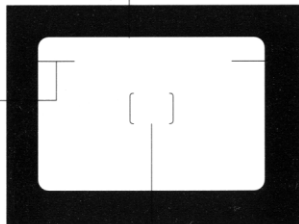
撮影範囲フレーム

実像式ファインダーですから、
見える範囲がそのまま写ります。

近距離補正マーク

近距離撮影時には、このマークより下側が写る範囲になります。

オートフォーカスフレーム

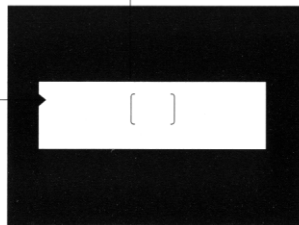
このフレーム内の被写体にピントが合います。

緑ランプ

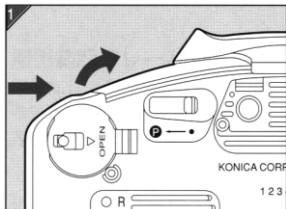
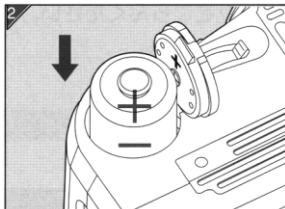
(点灯) AE・AFロック完了
AE＝自動露出
AF＝オートフォーカス
(点滅) 近距離警告

赤ランプ

(点灯) フラッシュ発光表示
フラッシュ充電中
(点滅) 手振れ警告
(フラッシュOFFモード時)

パノラマ撮影時

パノラマ撮影範囲フレーム
このフレームの内側がパノラマ撮影で写る範囲です。
（オートフォーカスフレーム、緑ランプ、赤ランプの働きは標準撮影と同じです。）
パノラマ用近距離補正マーク
近距離撮影時には、このマークより下側が写る範囲になります。

1．電池の入れ方

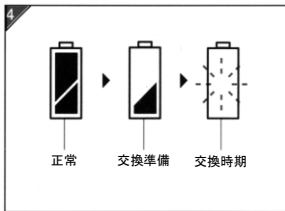
＊電池を入れた時、交換をした時はオートデートの修正をしてください。

ストラップ調節具の突起部で電池室カバーの開放ボタンを矢印方向に押すと、電池室カバーが開きます。

電池の＋、－を電池室内側の表示に合わせて入れ、カチッと音がするように電池室カバーを閉じます。

撮影表示パネルを見て、電池マークが黒く点灯していればOKです。

＊ 電池マークの確認はレンズカバーを開いた状態で行ってください。

⚠警告 爆発して大けがの危険があります。電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電をしないでください。

⚠注意 発熱発火の危険があります。指定外の電池を使用しないでください。

＊ 電池を入れた後は、必ず一度レンズカバーを開けてください。

使用する電池はリチウム電池(CR123Aまたは、DL123A：3V)１本です。

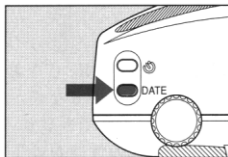
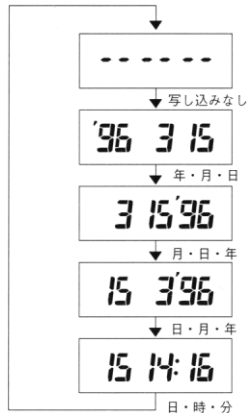
* 撮影の途中で電池マークが1/2白くなったら、最後まで撮影し、巻き戻した後、電池を交換してください。
* 長期間の旅行などには、予備の電池を用意しておくことをおすすめします。
* 連続してフラッシュ撮影をすると電池容量が少ない表示になることがありますが、しばらく待ってから再度電源ONにしなおして、電池の容量が十分な表示になればそのまま撮影できます。
* 寒冷地では電池の性能が低下しますのでカメラを保温しながらご使用ください。まれに電池の容量が十分でも電池の容量がない表示になることがあります。このときは再度シャッターボタンを押してください。

電池交換をするときのご注意

1) フィルムが入っているときは、電源OFFの状態で電池を手ばやく(20秒以内に)入れ替えてください。
2) 液晶表示が全て消灯しているときに電池を入れると、液晶表示が全て点灯した後、レンズカバーが開いているとき或いは閉じているレンズカバーを開けたときに、電源ON、OFFを自動的に行います。
3) 電池を交換して、電池室カバーを閉じるかシャッターボタンを押したときに、フィルムが数コマ空送りされフィルムカウンターが1になる場合がありますが撮影は続けられます。
4) フィルムの終わり近くで電池を交換すると、フィルムカウンターが0のまま点滅することがあります。このときは途中巻き戻しをしてください。

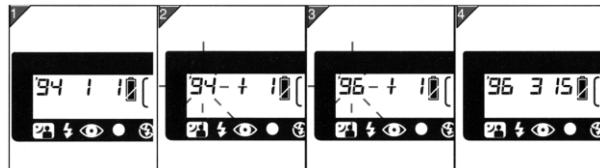
2．オートデート　日時　時刻を合わせてください

2029年までの日付・時刻を記憶し、画面に写し込むことができます。

表示モードの切替え

＊ オートデート切替えスイッチを押して年月日、日時分、写し込みなしを選びます。

＊ 写し込みの位置が明るい場合、白い場合は、デート文字がはっきり出ないことがありますからご注意ください。

＊標準画面、パノラマ画面のどちらにも写し込みができます。

日付・時刻の修正

1. オートデート切替えスイッチを押して修正する年月日(日時分)を表示させます。
2. オートデート切替えスイッチを２秒以上押し続けると数字が点滅して、修正できます。
3. モードスイッチを左に回して点滅している数字を修正します。

＊ 数字は大きくする修正しかできません。大きくしすぎた場合はさらにモードスイッチを左に回していけば、小さい数字に戻り数字が再度大きくなります。

＊ オートデート切替えスイッチを押すと修正する所が切り替わります。

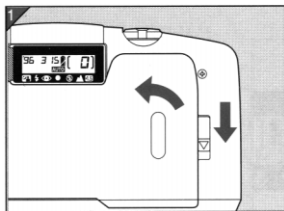
4. 修正が終わったらオートデート切替えスイッチを押して表示を、点滅から点灯にして、写し込み可能の状態にします。

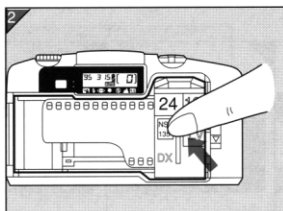
15 14:16

＊ 分を修正した後オートデート切替えスイッチを押すと、:が点滅します。もう一度オートデート切替えスイッチを押して、:を点灯させ写し込み可能の状態にしてください。

＊ 秒まで合わせるには、:の点滅時に時報に合わせてモードスイッチを左に１回カチッというまで回します。これで秒の修正は完了です。さらにオートデート切替えスイッチを押して、:を点灯させて写し込み可能の状態にしてください。

3．フィルムを入れてください

＊DXコードの付いた35㎜フィルムをご使用ください。

裏ぶた開放ノブを押し下げて、裏ぶたを開けます。

＊ カメラ内部のレンズに触れないために、電源ONの状態にしてレンズを前側に出すとレンズに触れにくくなります。もしレンズが汚れていたら、柔らかい乾いた布で汚れを拭きとってください。

パトローネ(フィルムの容器)をカチッと音がするまで押し入れ、フィルムが平らに出るようにします。

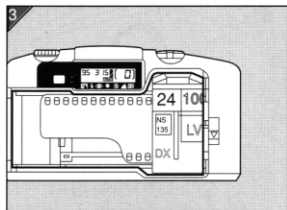
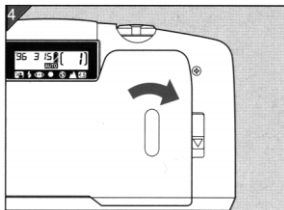
使用フィルム感度のDX導入感度

DX導入感度	25	50	100	200	400	800	1600	3200
使用フィルム感度（ISO）	25	50	100	200	400	800	1600	3200
	32	64	125	250	500	1000	2000	——
	40	80	160	320	640	1250	2500	——

＊ フィルムを入れると、使用フィルムの感度(ISO25～3200)が、自動的にセットされます。

＊ DXコードのないフィルムのDX導入感度は、すべてISO25にセットされます。

＊ リバーサルカラーフィルム(スライド用)は、下表のDX導入感度と同一感度のフィルムをご使用ください。

＊ コニカカラーフィルムのご使用をおすすめします。

フィルムを少し引きだし、先端をカメラ内部のテープの先端マーク(▼FILM TIP)に合わせてください。

裏ぶたを閉じるとフィルムは１枚目の撮影位置まで自動的に送られます。

＊ フィルム確認窓を見れば、フィルムが入っているかどうかわかります。

＊ DX導入感度ISO25にセットされるフィルムは電源ONにしてから、さらにシャッターボタンを押してください。

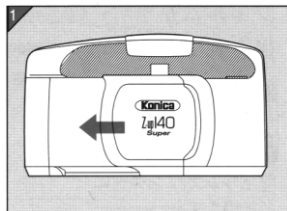
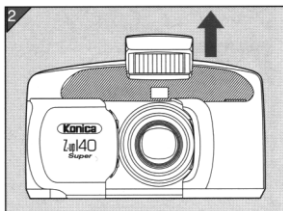
フィルムが
送られてたときは、

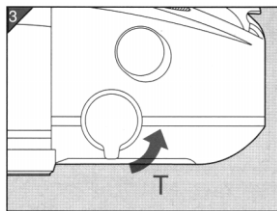
フィルムカウンターに
1が出ます。

フィルムが
送られていないときは、

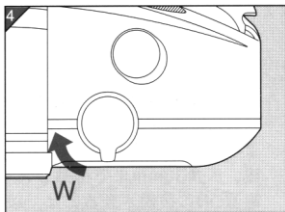
フィルムカウンターが
0のまま点滅します。
裏ぶたを開けフィルムを
入れ直してください。

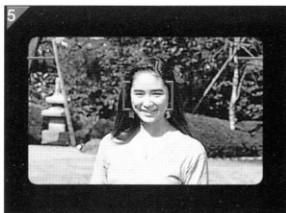
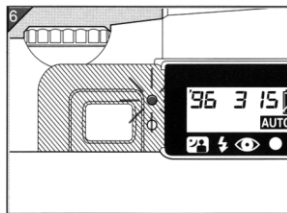
4．いよいよ撮影です(一般撮影)

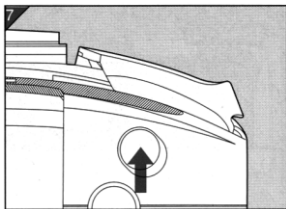
＊すべての撮影に共通する基本的な撮影の手順です。

レンズカバーを矢印の方向へ、カチッと音がするまでゆっくりとスライドさせて開けてください。

レンズが撮影位置(広角38㎜)まで繰り出され、リトラクダブルフラッシュがスイングアップして、電源ONになります。

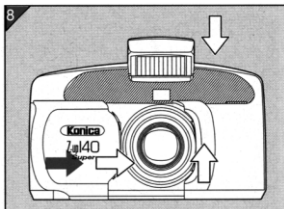
＊ 前面のレンズが汚れていたら柔らかい乾いた布で軽く拭きとってください。

ファインダー接眼窓をのぞきながらズームスイッチをＴ側に押すと、画面が望遠側に移動します。希望の構図になったとき、指を離して止めてください。

＊ レンズは望遠140㎜まで移動します。

＊ ファインダーの視野と実際に写る画面は連動しています。

ズームスイッチをW側に押すと、画面が広角側に移動します。
希望の構図になったとき、指を離して止めてください。

* レンズは広角38mmまで移動します。
* 被写体を大きくしすぎた場合、画面を広角側に戻し構図の調整が迅速にできます。

ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカスフレームを合わせます。

シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、自動的にピントが合います。

* シャッターボタン半押しで緑ランプが点滅したときは、被写体が近すぎてピントが合わない警告でシャッターがきれません。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、シャッターをきってください。

＊ 撮影が終るとフィルムが１コマ自動的に送られ、フィルムカウンターの数字が１つ進みます。

撮影が終わったらレンズカバーを矢印の方向へ一度、軽く(少し)スライドさせてください。電源OFFとなり、フラッシュがスイングダウンしてレンズが収納されます。レンズの収納を確認してからレンズカバーを最後まで閉じてください。

＊ レンズカバーを閉じる際カバーがレンズに当たらないようにご注意ください。

＊ 電源ONのままでも、約５分後自動的に電源OFFとなります。
この時、レンズは一度収納された後、広角38㎜まで移動します。
電源ONに復帰させるには、以下のいずれかの操作を行ってください。
1)レンズカバーの閉・開操作
2)シャッターボタンの半押し
3)ズームスイッチの操作
4)オートデート切替スイッチの操作

＊ 続けて撮影しないときは、レンズを収納してレンズカバーを閉じてください。

日中撮影の距離

焦点距離	撮影距離
38mm～140mm	0.8m ～∞

撮影する時の注意

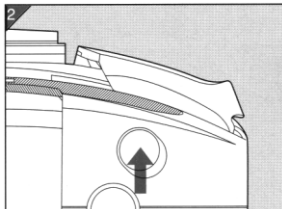
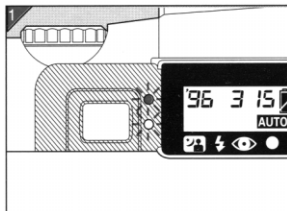
＊ シャッターをきったときにファインダーが動く場合がありますが、撮影は最初に決めた構図で行われます。

＊ 撮影最終コマではデートが写し込まれなかったり、デートの写し込みが途中で終わる場合があります。

5．自動フラッシュ撮影

＊暗いときフラッシュが自動的に発光します

シャッターボタンを半押しして、緑ランプと共に赤ランプが点灯したら、フラッシュが自動発光します。

シャッターボタンをさらに深く静かに押し込み、フラッシュ撮影をしてください。

＊ フィルム感度と撮影距離と焦点距離を自動的に判断し、フラッシュの光量が調節されます。

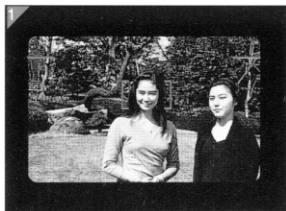
＊ フラッシュ撮影後､赤ランプが点灯中は､充電中ですからシャッターはきれません。

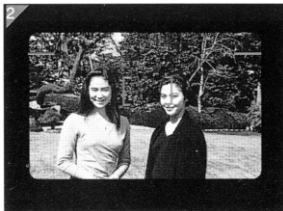
＊ 人物のフラッシュ撮影をするときは､赤目現象を軽減するために赤目軽減撮影をおすすめします。

フラッシュ撮影の距離(ネガカラーフィルム使用の場合)

焦点距離	フィルム感度	撮影距離
38mm	ISO 100	0.8m～ 7m
	ISO 400	0.8m～ 14m
140mm	ISO 100	0.8m～ 2.5m
	ISO 400	0.8m～ 4.9m

6．フォーカスロック撮影

＊被写体を画面中央からはずしても
シャープに写せます。

ピントを合わせたい被写体にオートフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯してピント位置が固定されます。

＊ フォーカスロックと同時に自動露出も固定されます。

シャッターボタンを半押しのまま希望の構図に決め直し、シャッターボタンをさらに深く静かに押し込みシャッターをきってください。

＊ 構図を決め直すときに撮影距離を変えないでください。

＊ 半押しした指をシャッターボタンから離すとフォーカスロックは解除され、やり直しができます。

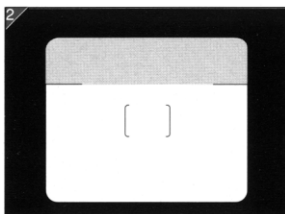
オートフォーカスが正しく
働きにくい被写体

①反射しにくい黒いもの
②小さいもの、細かいもの
③発光体
④光沢のあるもの
⑤雨、霧、煙等の実体のないものは測距しにくいので、等距離の測距しやすいものに向けてフォーカスロックをしてください。ガラス越しの撮影も測距しにくいので、遠景撮影では無限遠モードで撮影してください。

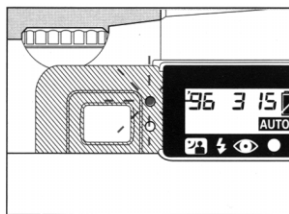
7. 近距離撮影

＊0.8mまで近づいて近距離撮影ができます

0.8m～1mに近づいてピントを合わせたいものに、オートフォーカスフレームを合わせます。

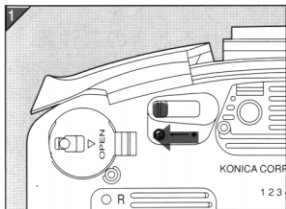
＊ レンズを望遠140㎜にセットすると、被写体がより大きく写ります。

ファインダー内の近距離補正マークより下側で構図を決め、シャッターボタンを押してください。

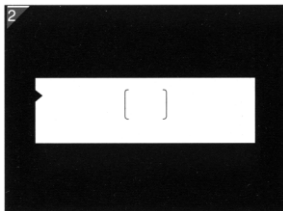
＊ 構図上、被写体がオートフォーカスフレームからはずれる場合は、フォーカスロック撮影をしてください。

＊ 三脚を使い、セルフタイマー撮影またはリモコン撮影をすると、カメラぶれを防げます。

シャッターボタンを半押しして緑ランプが点滅したときは…

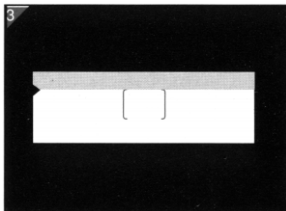
＊ 0.8mより近すぎてピントが合わない警告で、シャッターがきれません。シャッターボタンから指を離し、被写体から少し離れて押し直してください。

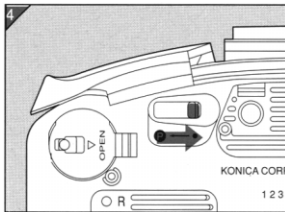
8．パノラマ撮影

＊撮影の途中でパノラマ画面に切替えが出来ます。

Ｐ切替えスイッチを矢印の方向へスライドさせると、パノラマ画面になります。

＊ ファインダーも同時にパノラマ用に切替わり、撮影範囲フレームが現れます。

パノラマ撮影範囲フレーム内で構図を決め、撮影してください。

＊ 構図上被写体がオートフォーカスフレームからはずれる場合はフォーカスロック撮影をしてください。

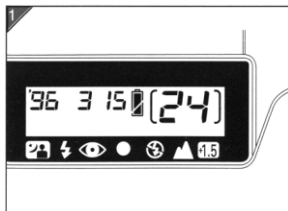
＊ このカメラのパノラマ撮影はカメラ側で標準画面の１コマ分の上下を遮光して写し込み、フィルムの中央部(約12×35㎜)をプリントの段階でパノラマサイズ(89×254㎜)に仕上げるものです。

1m以内の近距離撮影をする場合は、ファインダー内のパノラマ用近距離補正マークより下側で構図を決めて、シャッターをきってください。

＊ パノラマ撮影時の最短撮影距離は一般撮影と同じで、0.8mです。

パノラマ撮影が終わったらP切替えスイッチを矢印の方向へスライドさせてください。
標準画面に戻ります。

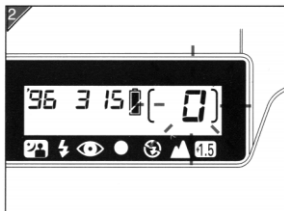
＊ パノラマ撮影でも、日付・時刻を写し込むことができます。

現像・プリントを依頼されるときのご注意

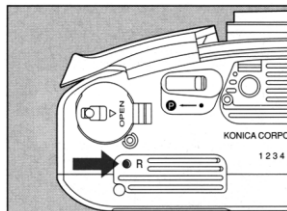
パノラマ撮影をしたフィルムの現像・プリントをDP店にご依頼になるときは、付属のパノラマシールをパトローネ（フィルムの容器）に貼って必ず「コニカカラー百年プリント“パノラマサイズ”で」と指定してください。
ご指定のない場合は、標準のサービスサイズでプリントされる場合があります。
シールの使い分け：標準撮影の途中でパノラマ撮影した場合は、
「パノラマ／標準混在シール」、
すべてパノラマ撮影した場合は
「全数パノラマ」シールを貼ってください。

9．フィルムの取り出し方

フィルムが最後になると、フラッシュとレンズが収納され、自動的に巻き戻しが始まります。

＊ フィルムカウンターは、巻き戻しに連動して減算します。

＊ フィルムの規定枚数より多く撮影した場合には、最後の画面が少し重なることがあります。

巻き戻し完了で自動的に停止します。フィルムカウンターの 0 の点滅を確認した上で裏ぶたを開け、フィルムを取り出してください。

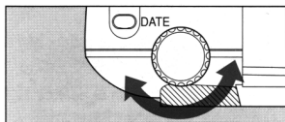
＊ 巻き戻し終了後、電源はOFFとなります。

＊ 写し終ったフィルムは、お早めにDP店にお持ちになり「コニカカラー百年プリント」とご指定ください、パノラマ撮影の場合はシールを貼付してください。

途中巻き戻しの方法

途中巻き戻し(R)スイッチをストラップ調節具の突起部で押すと、撮影途中のフィルムの巻き戻しができます。

＊ 巻き戻し後の手順は、自動巻き戻しの場合と同じです。

10. モード切替えスイッチの操作

＊被写体に応じて最適な露出方法を選択できます。

モードスイッチを回すと撮影モード表示パネル上のモード表示マーク(▼)が動き、モードを表示します。

＊ ゆっくり回すとモード表示マークが動かない場合があります。

＊ モードは循環しません。また、各モードは一度設定すると、そのモードで撮影を続けられます。

＊ 撮影が終わったら AUTO に戻しておいてください。また電源OFFにして、再度電源ONにすると AUTO に設定されます。

ポートレート夜景モード(フラッシュON)

↕

フラッシュONモード

↕

赤目軽減モード(プリ発光)(フラッシュAUTO)

↕

AUTO フラッシュAUTOモード(自動発光)

↕

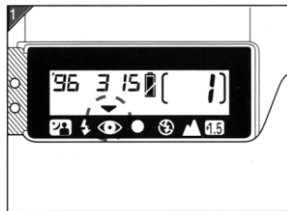
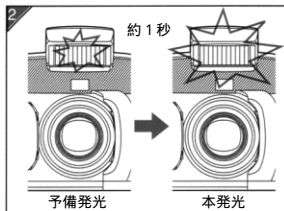
フラッシュOFFモード

↕

無限遠モード(フラッシュOFF)

↕

+1.5 ＋1.5露出補正モード(フラッシュOFF)

11. 赤目軽減撮影 フラッシュAUTOモード

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を に合わせます。

シャッターをきると撮影直前に小光量のフラッシュが予備発光(プリ発光)し、続けて本発光して撮影されます。

＊ 予備発光から本発光まで約１秒かかりますので、カメラを動かさないように注意してください。

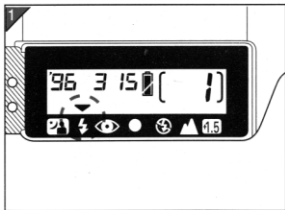
＊ 明るいところでは発光しません。

効果的な被写体

暗い場所での人物フラッシュ撮影(予備発光で瞳孔を小さくした上で本発光するので、赤目現象を軽減します。)

赤目現象とは…

暗い場所で人物のフラッシュ撮影をしたときに、フラッシュ光が目の網膜に反射して、目が赤く輝いて写ることがあります。これを赤目現象といいます。

12. 日中フラッシュ撮影 ⚡フラッシュONモード

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を⚡に合わせます。

日中フラッシュ撮影

被写体に向けてシャッターをきれば、明るいところでもフラッシュが発光します。

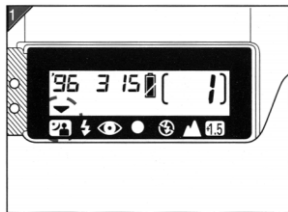
＊ シャッターボタン半押しで、緑ランプと赤ランプが同時に点灯します。

＊ このときのシャッター速度は、広角側で最長1/30秒まで、望遠側で最長1/60秒まででとなるのでカメラぶれにご注意ください。

フラッシュなし

効果的な被写体

①逆光の人物
②室内の窓際の人物
③曇り日の人物
④日陰の人物

13. ポートレート夜景撮影　フラッシュONモード

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を に合わせます。

ポートレート夜景撮影

暗い場所で被写体に向けてシャッターをきれば、最長約3.2秒までの超スローシャッターによるフラッシュ撮影ができます。

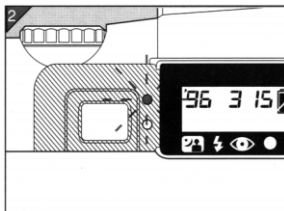
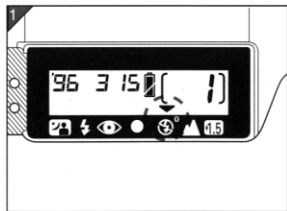
＊ カメラぶれを防ぐために、三脚をご使用ください。

＊ 被写体が動いているときは、ぶれて写ります。

自動フラッシュ撮影

効果的な被写体

①夜景の人物
②夕景の人物
③バックにフラッシュ光が届かない室内の人物

14. フラッシュなしの撮影 フラッシュOFFモード

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を ⊛ に合わせます。

＊ フラッシュは自動的にスイングダウンして発光しません。

＊ AUTO モードに戻すとフラッシュは自動的にスイングアップします。

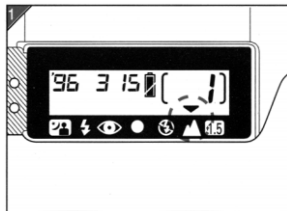
被写体に向けてシャッターをきれば、最長約3.2秒までの超スローシャッターによる自動露出撮影ができます。

＊ 暗い場所では、カメラぶれを防ぐために、三脚を使用してください。

＊ 赤ランプが点滅したら手振れ警告です。

超スローシャッターによる撮影

効果的な被写体

①フラッシュが禁止されている美術館での撮影
②都会の夜景
③日没時の風景

15. 無限遠（遠景）撮影

ガラス越しの風景を無遠景撮影

一般撮影

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を ▲ に合わせます。

＊ フラッシュは自動的にスイングダウンして発光しません。

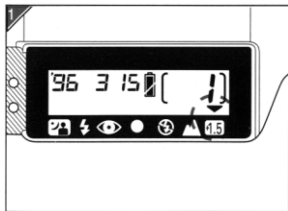
＊ AUTO モードに戻すとフラッシュは自動的にスイングアップします。

オートフォーカスフレーム内の被写体に関係なく、遠景にピントのあった撮影ができます。

＊ 夕・夜景など暗いときの撮影はシャッター速度が遅くなりますから、カメラぶれを防ぐために三脚を使用してください。

効果的な被写体

①遠景
②ガラス越しの風景

16. ＋1.5露出補正撮影 +1.5 フラッシュOFFモード

モードスイッチを回してモード表示マーク(▼)を +1.5 に合わせます。

＊ フラッシュは自動的にスイングダウンして発光しません。

＊ AUTO モードに戻すとフラッシュは自動的にスイングアップします。

＋1.5露出補正撮影

被写体に向けてシャッターをきれば、標準より約1.5絞り明るい自動露出撮影ができます。

＊ 逆光であるがフラッシュを発光させたくない場合やフラッシュの光が届かない場合に使用してください。

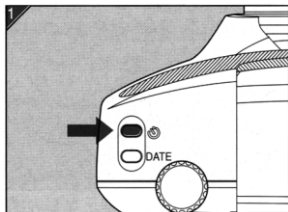
＊ 暗い場所では手ぶれを防ぐために、三脚を使用してください。

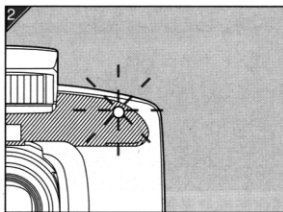
露出補正なしの撮影

効果的な被写体

①画面全体を明るく仕上げたいとき
②スキー場の人物
③逆光の人物
④白バックの人物
⑤明暗コントラストが強い建物の暗部を明るく写したいとき

17. セルフタイマー撮影

＊記念撮影だけでなく近距離撮影や
無限遠撮影にも活用できます。

セルフタイマースイッチを押し、押した指を離したときに、セルフタイマーがスタートします。

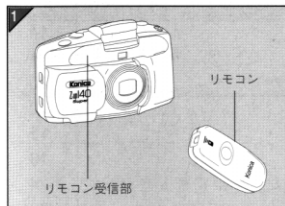
＊ セルフタイマーがスタートしたときに、ピントと露出がロックされます。

セルフタイマーのスタートから約10秒後にシャッターがきれます。

＊ スタートと同時に、セルフタイマーランプが点灯し、撮影の約３秒前から点滅に切替わります。

＊ 三脚をご使用ください。

＊ スタートはカメラの後ろ側から行ってください。前からでは正しいピント、露出が得られません。

＊ 作動中にキャンセルしたいときはセルフタイマースイッチまたはシャッターボタンを再度押すか、レンズカバーを閉じて電源OFFにしてください。

18. リモコン撮影 ＊カメラから離れて撮影することが出来ます。

リモコンの送信部をカメラの受信部に向けて送信ボタンを押すと、セルフタイマーランプが３秒間点滅後、シャッターがきれます。

＊ セルフタイマー以外の全ての撮影モードで、リモコン撮影が出来ます。

＊ 受信可能距離は約5m以内(正面)です。

＊ リモコン受信部に強い光が当る時、インバーター蛍光灯に近い時は撮影できないことがあります。

＊ リモコンには電池が入っています。撮影できなくなったら、当社サービスステーションで電池を交換してください。(有償)

⚠警告　爆発して大けがの危険があります。リモコンを火の中に入れたり、分解、加熱しないでください。

おもな仕様

＊下記製品については当社試験条件によります。
＊製品の仕様、外観については予告なく変更することがあります。

項目	仕様
形式	：レンズシャッター式ズームレンズ付AF全自動35 mmカメラ
画面サイズ	：24×36mmパノラマサイズ切替え式
レンズ	：コニカズームレンズ38mm F3.6 ～140mm F10.2（9群10枚）レンズカバー付
パワースイッチ	：レンズカバー開で電源ONになり、レンズが繰り出し、フラッシュがスイングアップ。レンズカバー閉でフラッシュおよびレンズを収納し電源OFFとなる。電源ONのまま約5分間操作をしないと自動的に電源OFF。電池残量を液晶パネルに表示
シャッター	：絞り兼用プログラム電子シャッター、電磁レリーズ、3.2秒～1/280秒
露出連動範囲	：ISO 100 f=38mm EV2～EV16 f=140mm EV4.9～EV16
露出調整	：CdS受光素子使用のプログラムAE、中央重点測光
フィルム感度	：自動設定（ISO 25～ISO3200）
焦点調節	：赤外線ノンスキャンアクティブ式自動焦点、撮影範囲：0.8～∞、撮影範囲外レリーズロック（緑ランプ点滅）、フォーカスロック可能、無限遠撮影可能
ファインダー	：実像式ズームファインダー、オートフォーカスフレーム、近距離補正マーク、パノラマ撮影切り替え時に撮影範囲フレーム、パノラマ用近距離補正マーク、ファインダーわきに緑ランプ（点灯；AE・AFロック、点滅；近距離警告）、赤ランプ（点灯；フラッシュ発光表示、フラッシュ充電中表示、点滅；手振れ警告）
フラッシュ	：オートでスイングアップ、スイングダウンするリトラクタブル機構、手ぶれ限界の低輝度時と広角側の逆光時に自動発光するフラッシュマチック機構、連動範囲・（ISO 100）f=38mm0.8m～7m、f=140mm0.8m～2.5m、発光間隔・7秒、フィルム感度・撮影距離・焦点距離を自動的に判断して光量調節
パノラマ撮影	：P（パノラマ）切替えスイッチによりパノラマ画面に変換、ファインダー内にP（パノラマ）撮影範囲フレーム、近距離補正マーク表示、P（パノラマ）切替えスイッチにより標準画面に復帰、撮影途中の変換可能、オートデートの写し込み位置自動切替え
モード切替え	：自動フラッシュ撮影、赤目軽減（プリ発光）撮影、日中フラッシュ撮影、ポートレート夜景撮影、フラッシュなしの撮影、無限遠（遠景）撮影、＋1．5露出補正撮影の各モードを選択可能、液晶パネル（畜光式液晶）に表示、セルフタイマー撮影可能
セルフタイマー	：電子式、作動時間・約10秒、セルフタイマーランプが約7秒間点灯した後、約3秒間点滅、途中解除可能
リモコン	：赤外光利用の専用リモコンシステム、送信ボタンで始動、受信可能距離約5m以内（正面）、電池CR2025 3V 1個、電池寿命約10.000回
フィルム給送	：電動式、裏ぶたを閉じるとスタートするオートローディング、自動巻き上げ、フィルム終了でオートリターン、巻き戻し後自動停止、途中巻き戻し可能
フィルムカウンター	：順算式、液晶パネルに表示
オートデート	：液晶表示式デジタルウォッチ内蔵、2029年までの年月日、月日年、日月年、日時分を表示。秒単位まで修正可能、写し込みなしも選択可能
使用温度範囲	：-10℃～50℃
電池寿命	：50%フラッシュ発光のとき約10本（24枚撮りフィルム）
電源	：リチウム電池（CR123A、またはDL123A・3V）1本
大きさ	：119.5×68×55mm
質量（重さ）	：290g（電池別）